

村上市長賞

『税とこれからの私たち』

村上市立荒川中学校 3年
門脇 うた さん

「税」と聞くと、消費税の引き上げなど、マイナスなイメージが大きくあります。ですが、先日、租税教室を受けた際には、そのイメージがプラスに変わりました。

私たちにとって身近な税。私は、「なぜこんなにたくさんの方が税を納めているのに、日本は借金を抱えているのだろう」と疑問に思いました。私たちの使っている教科書などは、税金によって購入されていることは知識としてありました。ですが、私たちの納めている税が、私たちの健康や生活を守るため、道路や住宅などの整備のためなど、たくさん税金が未来の私たち、これまで日本を担ってくれた高齢者など、全国民のために使われていることが分かりました。

私が特に興味を持った税の使い道は、歳出の中で一番金額が多い、社会保障です。少子高齢化の現代、増加していく高齢者の社会保障の費用が増えていくこと、その費用を負担する働き手が減っているという課題を学びました。少子高齢化が私たちの税に関係してい



るとは知らず、今まで他人事にしていた税がより大きい物に感じました。

税率が高い、ハンガリーやスウェーデンなどのヨーロッパ諸国では、社会保障が手厚く、国民の幸福度が高いという話を聞いたことがあります。低い税金を納めているからといって幸福度が低いというわけではありません。ですが、たくさんの方が大きな税を納めることで、後に多くの方が救われると思います。

私が思う「税」とは、一つの助け合いだと思います。身近に、かつ公平にある税金だからこそ、義務感を感じ、税に対して他人事のように感じてしまっている人が多いと思います。私たち学生が立派に勉強に励めるのも、税金、道路など街が清潔に保たれているのも税金。誰かが税金を納めなければ、私たちの日常が、変わってしまうかもしれません。自分の納めた税金が、誰かの役に立っていると思えば、気持ちが少し明るくなると思います。

以前の私のように、税に対してマイナスなイメージを持っている学生がたくさんいると思います。こういった租税教室などを設けることで、これからの日本を担い、たくさんの税金を納める私達にとっての「税」に対する気持ちが変わってくると私は思います。

